

地域計画

策定年月日	令和7年3月28日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	串本町 (30208)
地域名 (地域内農業集落名)	古田地区 (字岩淵谷・山口・谿・女鹿ノ谷・市谷・眞土・中立・栗原)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	11.60 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	11.19 ha
② 田の面積	6.79 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	4.40 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	3.12 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	6.18 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	2.05 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	1.00 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

農業者の高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が見込まれるのが現状であり、今後の持続的な農地利用が懸念されている。また未整備の圃場が多く残存しており、担い手による圃場の拡大や新規就農者の受入も困難な状態が続いている。

そのため後継者や新規就農者の確保及び育成、地域住民等を交えた地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。担い手の農地の集約化をさらに進め、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討するだけでなく、形状や面積が不揃いな農地において効率的な農業を実施する方策が求められる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稻を主要作物とした農業経営を継続しつつ、栽培手法の改善や産物の品質向上、新たな特産物の開発、後継者の育成等に取り組むことで、収量・収益の増加を図る。

地域内外からの認定農業者や認定新規就農者の受け入れを促進。農業を担う者を募り、圃場整理等に取り組みながら、地域全体で農地を利用する仕組みの整備を進める。

主な作物:コメ、キュウリ、トマト、ブロッコリー、トウモロコシ、サイパンイモ、ショウガ、ニンニク

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地中間管理事業の活用による担い手(認定農業者等)への農地の集積・集約化を基本としつつ、地域内の農業者による農地の保全・利用にも努める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	52	%	将来の目標とする集積率
			57 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
担い手を中心に可能な範囲で農地の集積・集約化を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積・集団化の取組
担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と農地相談員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。
(2)農地中間管理機構の活用方法
後継者のいない農家や遊休農地化が見込まれる農地について、所有者の意向を踏まえたうえで、農地中間管理機構を通じ、担い手への集積・集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組
農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
地域内外から、認定農業者や認定新規就農者等を募り、町及び農業協同組合と連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
農業協同組合と連携し、農作業受託や省力化機械の共同利用等の方法を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①平成29年度に補助事業を活用して設置した集落全体を囲む防護柵について、定期的な見回り点検等による維持・管理をし、鳥獣被害の防除に取り組む。また、集落内外の被害状況によっては、町に有害鳥獣捕獲を依頼する。
- ④水稻耕作が困難となった圃場については、畑地化等の活用を検討する。
- ⑦集落周辺の林縁部への緩衝帯整備や放置果樹の除去等を検討する。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作物等	経営面積	作業受託面積	経営作物等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		水稻、野菜	1.53 ha	0 ha	水稻、野菜	1.58 ha	0 ha	A	
認農		水稻、野菜	1.47 ha	0.2 ha	水稻、野菜	2.97 ha	0.2 ha	B	
利用者		野菜	0.03 ha	0 ha	野菜	0.03 ha	0 ha	C	
利用者		水稻	0.28 ha	0 ha	水稻	0.28 ha	0 ha	D	
利用者		水稻	0.58 ha	0 ha	水稻	0.58 ha	0 ha	E	
利用者		野菜	0.02 ha	0 ha	野菜	0.02 ha	0 ha	F	
利用者		水稻、野菜	0.48 ha	0 ha	水稻、野菜	0.55 ha	0 ha	G	
利用者		野菜	0.01 ha	0 ha	野菜	0.02 ha	0 ha	H	
利用者		水稻、野菜	0.36 ha	0 ha	水稻、野菜	0.25 ha	0 ha	I	
利用者		野菜	0.08 ha	0 ha	野菜	0.08 ha	0 ha	J	
利用者		水稻	0.70 ha	0 ha	水稻	0.70 ha	0 ha	K	
利用者		水稻	0.64 ha	0 ha	水稻	0.64 ha	0 ha	L	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	0経営体		6.18 ha	0.2 ha		7.7 ha	0.2 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。